

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2017年(平成29年)11月1日 《年6回・奇数月発行》 会報 第97号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao,Khan Por Senchy
Khan Por Senchy,(Borey Newtown) Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】AAC21 [検索](#)

【公式ブログ】メコンの風に吹かれて [検索](#)

【Facebook】<https://www.facebook.com/aac21.net> [検索](#)

旧日本軍の飛行場跡を見学

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

加えて、飛行場の建設作業を手伝ったカンボジア人男性の弟さんから、兄から聞いた話を聞けるということで、早速インタビューした。

その方はメモットさん(72)とい、一番年上の兄が、毎日2時間か

9月9日、「ロムドルラクスメイ小学校」(タケオ県トラン郡)での井戸贈呈式を終えた後、地元

の飛行場に通い、滑走路を整備したという。わずかな労賃だったが、多少の小遣いになったそう

旧日本軍の飛行場跡を見学

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

加えて、飛行場の建設作業を手伝ったカンボジア人男性の弟さんから、兄から聞いた話を聞けるということで、早速インタビューした。

その方はメモットさん(72)とい、一番年上の兄が、毎日2時間か

9月9日、「ロムドルラクスメイ小学校」(タケオ県トラン郡)での井戸贈呈式を終えた後、地元

の飛行場に通い、滑走路を整備したという。わずかな労賃だったが、多少の小遣いになったそう

「味の素労働組合」及び「味の素グループ労働組合」の資金協力で小学校校舎建設が着工



お坊様による着工式



校舎はレンガ造りの平屋建て

同団体の支援により、カンボジアで小学校の校舎建設工事がスタート、9月11日、その着工式が行われ根岸理事長が出席した。



急ピッチで工事が進んでいる

の素労働組合」の皆さんが出席して開校式を行うことになっている。

水彩画を図書館へ贈る

8月26日、愛知県安城市の教育関係者8名が、石川桂副理事長(安城市、里親会員)の案内で、カンボジアの「トロパントム石川小学校」(コンボンチャム県)を訪ねた。校内施設の参観と、図書館へ水彩画を贈るのが目的だ。

水彩画は3点。安城市に住む3姉妹が、図書館の壁面を飾るのにふさわしい作品として仕上げた額入りの絵だ。訪問に参加した2人の姉妹から、カンボジアの子どもたちにプレゼントした。贈呈のセレモニーに出席した生徒たちや住民たちは、初めて見る日本の中学生(安城市立篠目中学校)が色彩豊かに表現した作品を観て感動し、拍手と歓迎のことばで盛り上がった。



水彩画をプレゼント

懇親会(忘年会)を開催します

会員相互の親交を深めるため、忘年会を開催いたします。参加をご希望される方は、事務局へお申し込みください。

日時:12月9日(土)
正午から2時半まで
会場:レストラン「サンアロハ」
(横浜山下公園近く)
会費:4,500円
会費は当日会場にて、お支払いください。
※お申込みされた方へ会場までの地図を郵送いたします。



た、多くの先輩諸氏に感謝し現場を後にした。



左から2人目がメモットさん(右となりが根岸理事長)

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



里親さん、ありがとう

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめようとする子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】:子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の使途】:年会費の40%が、学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金など、子どものために使われます。年会費の60%が、夢ホームで暮らす子どもたちの生活費及び運営費、里子をケアして下さる各学校への謝礼金、現地スタッフの給料・ガソリン代・事務所家賃・車の整備代など現地でかかる経費、通信費・印刷費・人件費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】:最低1年間単位ですが、少なくとも里子が学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。(年に一度、成績表も届きます)

【里子との交流】:里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。(お礼状と写真が届きます)

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、現在公的資金(税金)はいただいております。

上山陽子さんがカンボジア訪問

9月2日〜7日、上山陽子さん（奈良県大淀町、法人監事・里親会員）がカンボジアを訪問、本会の現地活動を手伝ってくれた。

2日には、夢ホームの子どもたちを自費でシアヌークビル（海岸のリゾート地）に招待してくれ、ひと時を楽しんだ。初めて海を見た子もいて、笑顔一杯の日曜日になった。



初めて海を見た子どももいた

児童養護施設
夢ホーム日記

カンボジアのコンボンスプー県にある児童養護施設「夢ホーム」は、両親や片親を亡くしたり、親がいても不遇な環境にある子どもたちの生活と教育の場として、会員の皆様のご厚意により2009年3月に開園しました。

現在10歳〜18歳の男女12人が暮らし、近隣の小・中・高校に通学しています。

■ お盆休暇で子どもたちは帰省

カンボジアは9月がお盆にあたり、子どもたちは2週間ほど、住んでいた村に帰省した。帰る家のない子や帰りたくない子は帰省せず、園で過ごした。

今年は10月16日が新学期、夢ホームの子どもたちも進級して勉学に励んでいる。

■ 2人の高校生が卒業

今年は2人の高校3年生が卒業し、園を巣立っていった。

進路はまだはっきりしていないが、夢ホームでの経験を糧に自立してもらいたい。

カンボジアの小学校に2つの井戸が完成

9月9日、「ロムドルラクスメイ小学校」（タケオ県トラン郡、生徒数＝173人）において井戸の贈呈式を行った。「北海道札幌手稲高校家庭クラブ」の皆さんが資金提供してくれた。

今回は、カンボジア留学生協会（ノップ・ヴィサール会長）とコラボして、贈呈式の中で学用品を配布したり、井戸の脇に植樹した。

同月26日には、「ロマンソー小学校」（コンボンスプー県オラル郡、生徒数＝60人）にて井戸贈呈式を行った。井戸を寄贈した三林けい子さん（新潟市、里親会員）が出席、学用品を配布した。



三林けい子様寄贈の井戸



手稲高校家庭クラブ様寄贈の井戸

9月に完成した井戸の内訳

	ネームプレート名	学校名	生徒数	所在地(県名)
①	北海道札幌手稲高等学校家庭クラブ	ロムドルラクスメイ小学校	173人	タケオ県
②	新潟発→カンボジア支援プロジェクト730	ロマンソー小学校	60人	コンボンスプー県

※通算の井戸設置数(2003年〜)＝308基(9月現在)



技術指導の様子

《夢ホーム》
第33回鑄造によるアクセサリ作り技術講習会

榎戸徹彦さん（横浜市、理事・里親会員）は隔月にカンボジアを訪問、夢ホーム内に設けた工房で、夢ホームや近所の子どもたちを対象に、アクセサリ作りの技術講習会を開いている。

第33回講習会を、9月26日〜30日に行った。

夢ホームで目にする動植物のアクセサリを作り、デザインも本人たちにさせているので、皆楽しそうに講習を受けている。

次の講習会を、11月14日〜18日に予定している。

國學院大学「優志」の皆さんがカンボジア訪問

8月28日〜9月17日、國學院大學国際協力サークル「優志」の皆さんがカンボジアを訪問、農村で衛生授業などの活動を行った。

9月2日には「夢ホーム」を訪問、昼食にカレーを作ったりして、子どもたちと交流した。



腕相撲をして遊ぶ



アメをもらい嬉しそう

子どもたちに寄贈品を届けました

9月6日〜17日、根岸理事長がカンボジア滞在中、日本から持参した寄贈品を村の子どもたちや夢ホームに届けた。（寄贈品は次の通り）

・ぬいぐるみと衣類（加藤知恵子様）

・飴とカードのセット（岩橋京子様）

・手作りのバッグ（山本信子様）

三林けい子さんがカンボジア訪問

9月22日〜10月2日、三林けい子さん（新潟市、理事・里親会員）がカンボジアを訪問した。現地がお盆休暇だったこともあり、今回はフリータイムが多く各所見学やリサーチに時間を割いた。

26日には、三林さんが寄贈した井戸の贈呈式に出席した。また30日には、三林さんが教育支援する里子のいるトントロラツチ小学校（コンボンチャム県）を地元の学生を伴い訪問、里子の家を訪問したり、生徒たちと楽しく交流した。



ピンポン外交してきました

●リー（37歳・男性）＝2006

●スレイニッチ（22歳・女性）＝2015年から勤務。プノンペン大学日本語学科（夜間部）に在籍（3年生）し、日本語を勉強中。

●ボレイ（35歳・女性）＝2014年から勤務。日本語が堪能なので、3人の中ではリーダー的存在。プノンペン大学生だが、多忙のため休学中。

現地スタッフを紹介します

現地で本会の活動を支えるスタッフは、全員で6人。内訳は、3人がプノンペン事務所に勤務、3人は児童養護施設「夢ホーム」のスタッフ。

今号では、プノンペン事務所働く3人のカンボジア人を紹介したい。

「コンボンスプー県小学校対抗サッカー大会の優勝チームが「Dream Challenge Cup 2nd in 2017」に出場

9月7日、カンボジア・プノンペン市内の「オリンピックスタジアム」にて、小学5・6年生（U-12世代）を対象にしたサッカー大会（Dream Challenge Cup 2nd in 2017）が開催された。

カンボジア全国から12チームが参加、午前9時から午後4時まで、グループリーグと決勝トーナメントが行われ、熱戦を繰りひろげた。主催したのは、学生団体WorldFut（代表＝勝倉直登）。

カンボジアの子どもたちの



参加した各チームと、主催した学生団体の皆さん



左からスレイニッチ、ボレイ、リー

年から勤務、現職のドライバーは2014年から。日本語はできないが、卓越した運転技術を持つ。あだ名は人間カーナビ。カーナビのないカンボジアで、地図なしでどこにでも行ける。3人のチームワークは良好で、頼りになる現地スタッフである。

熱戦が繰りひろげられました

成績は4回戦って1勝1敗（2引き分け）と、まずまずだった。



クメール教育里親基金活動レポート

本会は、事故や病気、親の離婚などにより両親又は片親を失い、かつ貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学べるようにと、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在約400人の貧しい子どもたちを教育支援している。

9月11日～14日、教育里親さんからお預かりした里子へのプレゼントを、20人の子どもたちに届けた。残りのプレゼントは、現地スタッフが後日届けた。

今年の新学期は、全国一斉に10月16日に決まった。会報が会員の皆様

に届く頃には新学期が始まり、里子たちは新たな気持ちで、学業に励んでいることだろう。
(根岸記)



里子の家族と近所の子どもたち

教育里子へプレゼントをお届けします

お届け後、里子から写真付きのお礼状が届きます

【プレゼントのお届け方法は2つございます。下記をご参照ください。】

①現地(カンボジア)購入

本会の現地スタッフがカンボジアで購入し、里子に届けます。所定の郵便振込票を使ってお送りください。プレゼントの種類は、下記の通りです。

- 自転車(大人用・中古品) …8,000円
- お米(50kg) …5,000円
- Tシャツ・サンダルセット(Tシャツ2枚&サンダル1足) …2,000円
- お菓子セット(お菓子の詰め合わせ) …1,000円
- 本セット(絵本3～4冊/高学年以上は児童書・伝記等1～2冊) …1,000円
- 文房具セット…1,000円(ノート・筆記用具等)



新しく追加した文房具セット▶

②日本から持参

品物や手紙は練馬区の事務局に送っていただき、カンボジア訪問時に現地へ持参します。空港からの持ち出しに重量制限がありますので、A4サイズ封筒に入る程度にしてください。

※現物が多い場合、現地への持参を先に延ばしていただくこともありますので、予めご承知ください。

- 奇数月にカンボジアを訪問しますので、プレゼント(現物・現金ともに)は偶数月の末日までに届きますよう、お送りください。
- 詳細は、事務局までお問い合わせください。

投稿 日本語学校の送迎アシスタントを始めました「ソム・クソム」

私はソム・クソムという名前です。夢ホームではクーちゃんと呼ばれていました。2009年、夢ホームができた時に入園しました。小学6年生でした。おかげさまで2015年に高等学校を卒業し、日本人の支援によりメコン大学・日本語学科に入学しました。11月から3年生になります。学費と生活費を稼ぐため、今年からアルバイトを始めました。日本人

学校に通う子どもたちの送迎バスのアシスタントです。子どもたちの日本語を聞くと、勉強になります。あと2年で大学を卒業しますが、その後は日本語にかかわる職業に就きたいと思っています。日本の里親さんには心より感謝しています。



カンボジアミニニュース

現地で発行している新聞や情報誌等から、カンボジアに関するホットなニュースを紹介します

サンボープレイクック遺跡が世界遺産に認定

ポーランドで開かれたユネスコの世界遺産委員会で、カンボジアのサンボープレイクック遺跡群が世界遺産に認定された。

カンボジア国内での世界遺産は、アンコール遺跡群(1992年)、プレアヴィヒア寺院遺跡(2008年)に続き3例目。

サンボープレイクックは、コンボントム県都から北東へ約30キロのところにある、深い森に囲まれた遺跡群。7世紀に栄えた王朝の寺院遺跡で、中でも八角形の祠堂が有名。

『ニョニウム』2017年90号「ホットニュース」26頁より引用



上智大学の石澤良昭教授が「マグサイサイ賞」受賞

アジアの平和や発展に貢献した個人や団体に贈られるマグサイサイ

イ賞に、上智大学の石澤教授が選ばれた。

石澤教授は、世界遺産「アンコール遺跡群」の研究を続け、修復や保全などにも尽力した功績が評価された。

この賞は、1957年に飛行機事故で死去したフィリピン大統領ラモン・マグサイサイにちなんで創設された賞で、毎年アジア地域での活動に授与される「アジアのノーベル賞」と呼ばれている。

『ニョニウム』2017年90号「ホットニュース」27頁より引用

チャップイ奏者のコン・ナイ氏が「福岡アジア文化賞」を受賞

カンボジアの伝統楽器「チャップイ」奏者のコン・ナイ氏が「福岡アジア文化賞」(芸術・文化賞)に選ばれた。

この賞は福岡市によって1990年に始められた賞で、「学術研究」又は「芸術・文化」の分野でアジア文化の保存と創造に貢献し、世界に対してアジア文化の意義を示した個人又は団体に贈られる。

コン・ナイ氏は、内戦の時代を生き抜いた数少ない伝承者として長年活動してきた。

『ニョニウム』2017年90号「ホットニュース」35頁より引用

写真展「カンボジアの子どもたち」調布市で開催

8月17日～18日、都内調布市、「調布市文化会館たづくり」11F「みんなの広場」において、写真展「カンボジアの子どもたち」を開催、現地活動や子どもたちの様子を撮った約40点を展示した。

また19日には、同会場において活動報告会を開催、少人数だったが、有意義な集いだった。

同会場での写真展は5回目の開催。以前、調布市にお住まいだった岡本浩史さん(狛江市、会員)の取り計らいにより、毎年この時期に開催している。



ウォッチカンボジア

カンボジアのお盆

カンボジアは仏教国なので、お盆を大切にしている。今年のお盆は9月18日～20日。しかしその前後の1～2週間ほど、学校・官庁・会社



が休みになり、その間に大半のカンボジア人はお寺に行き捧げものをしたり、お坊様の読経を聞いたりして内省するという。敬虔な国民である。

カンボジアのカトリック教徒

カンボジア人の大半が仏教徒だが、ベトナム系カンボジア人はカトリック教徒が多く、教会やお墓も



時々氾濫するメコン川

中国を源流とするメコン川は、ラオスを経由してカンボジアを縦断し、ベトナムで海に流れる。雨季になるとカンボジア領内で時折り氾濫し、周辺住民が被害を被っている。

今年も一時ではあるが川の水があふれ、川に近い小学校の校舎が浸水したそう。しかしメコン川の水が増え、最近開業したとんレサップ川に逆流する仕組みがあり、大規模な洪水を防いでい



電気製品の修理技術を習得して開業

里子の家を訪問していると、両親の足らない里子の父親がいた。聞くと、元軍人だったが内戦中に負傷し、両足を切断したそう。人のお世話になり食べてきたが、これではいけないと奮起、電気製品の修理技術をマスターして





第2回 カンボジア折々の記 共感の中で

宮川 公子

■6月26日

カンボジアは夜明けが遅いのだろうか。午前4時半まだ暗い。じつと夜明けを待つ。
5時を回った頃、サッサッサッ：ん？庭掃除？まだ薄暗いというのに。

目を凝らしてみると小さい子が3人、身の丈より大きい箒をもって、黙々と枯れ葉を掃き集めている。

朝焼けが東の空を染める頃、全ての子ども達の姿がそこにあった。掃き集める子、それを始末する子。素晴らしい連携プレーである。

掃き清められた園庭には、草露がキラキラと輝き気持ちよい朝を迎えていた。

「夢ホーム」一日の始まりである。

昼過ぎ、学校から帰った中・高生の女の子達。何やら楽しそうにバケツを抱え、廊下を行き来している。来訪者へのおもてなしである。

雨上がりの、清々しさが残る夕暮れどき。

ゲスト榎戸さんを迎え、食卓はいつになく華やいでいた。

夜、榎戸さんの部屋に灯りが点いた。ゆうべまで真っ暗だったあのお部屋に：そのこぼれ灯に、私は、安堵感とワクワク感で高揚していた。

「何はともあれ、明日から日本語があふれるのですから」

ソムブル小学校へ急がばわれ

■6月28日 訪問3日目

「鍵盤ハーモニカって、な」の一日目

「5本の指で8つの鍵盤をどうして弾くの？」の課題を数字合わせで難なくクリアした2日目。

こうして迎えた3日目である。子ども達の指からナンバーシールが消える。認識度が問われる今日の課題である。応用編である。「できるかな。オーケー？」

「オーケー！」

それぞれ五線譜に挑む。流れる旋律に驚き、喜びながら：机間巡視をしている私の足がふと止まる。「人指し指一本で弾いている？あの子も。この子も。」

他の学校ではなかった「つまずき」。ここが鍵盤奏法が一番大事なところである。

一度ついた癖は中々直らない。時間がない。明日・明後日帰国だというのに。正念場である。

子ども達を再び、遊びの空間へと誘う。5本の指先にナンバーシールが戻った。

ゲーム開始。子ども達は遊び感覚で、ナンバーを追う。指ナンバーを、しっかりと確認するかのよう

に「1(モアイ)2(ピー)3(バイ)」と数字を唱えながら鍵盤上に指を運ぶ。もう余念はない。

気が付くと、教室に、校舎に、校庭に「きらきら星」の旋律が心地よく流れていた。

ローロツ小学校へミニコンサート

■6月30日 訪問5日目

「オークン・スオスダイ」(おはよう)

「オークン・スオスダイ」で始まる共有タイム。

今日が最終日である。

真っ白なワイシャツ。フリルの付いたかわいいブラウス。いつになくめかし込んでいる。これから始まるコンサートステージの主人公たちである。

先生方が設営した赤色いっぱいの華やかなステージ。演奏開始である。曲は前回と同じ4曲。

私の伴奏に乗って呼吸のあった演奏を披露した。

大きな拍手に、子供たちは得意気だった。

前回と同じ曲である。しかし、子ども達の演奏には大きな飛躍があった。新しい分野への挑戦である。ナンバーごっこから「ど・れ・み」の世界に飛び込んだのである。

五線上の音符一つ一つを解読し鍵盤上に表現する技法に取り組んだのである。

大きな拍手を受けながら子供たちは一歩踏み出した自分に拍手をおくっていたのである。

子ども達一人ひとりの胸には誇らしげに、金賞のメダルが輝いていた。(宮城県石巻市、里親会員)



ローロツ小学校の校長先生より感謝状をいただきました



和顔施 今紀子

「わがんせ」笑顔で人に接するところが、一番の施しになるという仏教の言葉です。

この言葉を教えてくれたのは、山岳ガイドのO氏でした。

山は、もともと信仰の対象でした。O氏は、山の神や仏についても造詣が深く、山頂にまつられている小さなお社にも両手を合わせます。

あまり山に興味のなかった私が、10年以上も山に通っているのは、山の神様から「おいで」と呼ばれているような気がしているからです。

実は、私は視力があまり良くなく、とうとう右眼が失明してしまったのです。

残雪の山を歩いていた時、何度も転びました。デコボコの見分けができにくく、うっかり穴に落ちこんだりするのです。その時、片眼の不自由さをはっきり悟りました。

「障がい者手帳、もらえないかなあ」O氏に相談してみました。その話

を山の神様が聞いていたに違いない。一カ月も経たないうちに、名医の執刀で視力が回復したのです。そして、自分の顔を鏡に映して、がく然としました。「エッ、私の顔こんなにシワがあっただけ、シミ

あつたっけ」落ちこんで、しばらくは、鏡を見ませんでした。

そんな時、和顔施という言葉思い出しました。笑顔は、人の為に、そして自分のために。

朝、起きて鏡に向かって笑ってみました。

アラ、いいじゃん。可愛いじゃん。そうだ、笑えばいいんだ。笑えば元気になれる。

シワは、幸せのためにある。シミは、しみじみと心をいつくしむ。カンボジアに行っても何をしたらいいかわからないと悩んでいるあなた。あなたの優しい笑顔をカンボリアたちが待っていますよ。(東京都渋谷区、会員)

活動に参加しませんか

クメール教育里親会員

農村の貧しい子どもたちが学校に行けるようにと教育資金をサポートしてくださる教育里親会員を募集しています。サポート金額は年間3万円(分割可)です。

個人・団体会員として

・個人会員 (年額5千円)
・団体会員 (年額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

会費 寄付金の送付は、銀行振込郵便振替、現金書留で。

【口座名】

21世紀のカンボジアを支援する会
【ゆうちょ銀行】
019支店 当座0160916

【りそな銀行】

練馬支店 普通4098235
●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

？ 会員の皆様からのご質問

今回は、里親様から里子へ送るプレゼントに関しますご質問にお答えいたします。

質問1 里子へのプレゼントが里子の手元に届くまでの流れを説明してください。

回答1 教育里親様から里子へのプレゼントをお送りいただく方法は2通りございます。
一つ目の方法は、里親様をご準備いただいたプレゼントを東京の事務局へお送りいただき、カンボジア訪問時(隔月)に現地へ持参いたします。二つ目の方法は、プレゼント代を事務局へお振込いただき、現地でプレゼントを購入し、里子にお届けいたします。(プレゼントの種類は3面に掲載)
なお現地購入のプレゼント代ですが、プレゼント代金の内、20パーセントを諸経費として頂いております。
プレゼントは、現地を訪問する理事長が直接里子に届けるか、現地スタッフが里子へ教育支援金を渡す際に(2か月に1度)、一緒に届けております。
プレゼントをもらった里子からはお礼状とお写真を、後日里親様に郵送いたします。(日本語訳が付いています)
このほか、里親様ご自身が現地を訪問し、支援する里子に直接プレゼントを届けることもございます。
※里親様が里子に直接お渡しになる場合は、必ず事前に事務局へご相談ください。

質問2 里子にプレゼントを届けることはいいことですが、近所の子どもたちへの配慮が必要と思いますが、どのような対策をしていますか？

回答2 ご指摘の通り、里子にプレゼントを渡しに行くと近所の子どもたちが集まり、物欲しそうな目をする場合があります。
当会では、支援者の方から送っていただいた寄贈品(ぬいぐるみ、飴、文具など数量が多いもの)を日本から持参し、プレゼントを里子に渡す際、近所の子どもたちに配っております。

